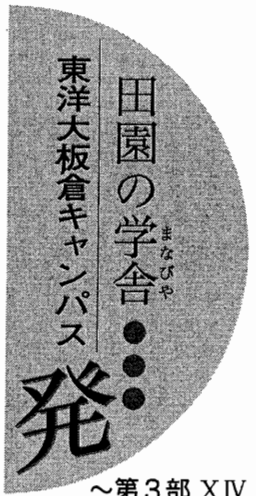


サウスウェスタン大学英語研修 (フィリピン・セブ島)

国際地域学部 国際地域学科2年

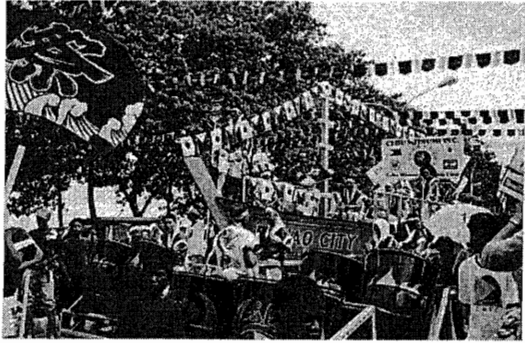
石橋明子・漆原七恵



～第3部 XIV



授業中の和気あいあいとした光景(上)と、セブ島でのお祭りのひとこま。日本人の団体も参加しているのを発見!



意思疎通に不可欠

2006年8月31日。暑さの続く日本をたち空路4時間、フィリピンのセブ島へと降り立ちました。初の試みであるサウスウェスタン校における海外語学セミナーに参加するためです。8月31日から9月27日までの28日間、参加者20名を引率教員はセブ市内にあるホテルで約1カ月の共同生活を送りました。平日は朝8時半から11時半まで講義。午後は、月水金はサウスウェスタンの学生と1対1でのフリートーク。火木はフィリピンの文化に関する

発音の大切さ実感 生活習慣や自然体験

る講義が2時間。すべて英語です。午前中の授業では自己紹介から始まり、ティスカッションやフィリピンのゲームなどをしとに英語を使って表現。午後の講義ではフィリピンの歴史や宗教について学び、学内でお祭りの踊りを見たりもしました。

フィリピンでは、多くの人が第二言語として英語を身につけています。多くの言語が話されているこの島国では、違つた地方の人々が意思疎通を図ろうと思つたり、実は英語を使つていかないのです。これは、各地から学生が集まってくる大学キャンパスではいささか顕著です。

(ここでの英語教育は、日本で行っているものとは比べ物にならないほど高密度な感じがしました。最初に組んだ学生は、将来先生になりたいという夢も手

伝つてか、とても発音に厳しい人でした。細かい発音の違いも見逃さず、そのつど直してくれました。はじめは何がいけないのかわからなかった私も、フィーストフードで注文が通じず、何度も言い直したときに発音の大切さを実感。1カ月で何とかきれいな英語が発音できるようになつてきました。



ボホール島のチョコレートヒルズをバックに後列の柱左側が石橋さん、中列左でポーズをとる漆原さん

環境NGO訪問

私は、どのように休日を過ごしたか書いてみたいと思いましたが、土日もたいてい予定が組まれていて、近くの島へ出かけたリ、セブ島内をバスで観光したりしました。予定がない日は、友達と市内の観光スポットをタクシーや乗り合いの「ジプニー」を使って回りました。

もうひとつ思い出に残っているのが、セブ市内にあるNGOを訪問したこと。一般的にセブリゾートというイメージがあると思います。確かに海沿いには高級ホテルがたくさん建っています。高層ビルや巨大ショッピングセンターもあります。けれど、そこから一歩離れると、道路や住宅環境の整備はまだこれからという状況です。セブには、地域のさまざまな課題や問題に取り組んでいるNGOがたくさんあります。私たちが訪れたNGOでは、活動の一環として、ジュースパックでバックやエプロンなどのリサイクル製品を作っていました。

その製品がとてもかわいかったので、学園祭で売ればきっと大きな利益になり、このNGOに寄付できると思いました。友達と協力して、バックやエプロン計3点を買って帰りました。そして、去年の11月の学園祭に出店したところ完売、1万1000円を寄付することができました。

この語学研修は英語の学習はもちろんのこと、観光したりNGO活動を学んだり内容がとても充実していました。参加して本当に良かったと思います。(漆原七恵)

たりして楽しく過ごせるようになりました。学生同士の会話では日本とフィリピンの生活や考え方の違いを感じたり、逆に変わつたものを感ぜたりと、とても新鮮な経験でした。今回、日本語が通じない環境で、英語で自分の意思を相手に伝えるためには、自分を出すことも必要だと学びました。はじめの「It's not my job to be shy! (恥ずかしがるなよ)」と言われていた私たちも、最後のころには私たちが「Don't be shy!」と笑って打ち解けられるようになりました。(石橋明子)